

地域連携協働NEWS

福島県教育庁南会津教育事務所
総務社会教育課

地域の郷土食を学ぶために ～旭田小学校「総合的な学習の時間」

12月1日に旭田小学校3年生が「総合的な学習の時間」で訪問していた「蕎屋さんきょうや」での授業を参観しました。この日の授業は下郷町の郷土食「しんごろう」づくりでした。旭田小学校の3年生は「町のいいところ発見」というテーマで、りんご、じゅうねん、蕎麦などの町の特産品や郷土食であるニシンの山椒漬け、こづゆ、蕎麦、しんごろうについてグループに分かれ、調べ学習をしてきました。この日はよいよ「しんごろう」づくり。子供たちは目を輝かせ授業に臨んでいました。7年ほど前までは、蕎屋さんが直接学校に出向き、学習発表会に向けて味噌作りから取り組んでいました。3年前から蕎屋さんに訪問しての活動を行っています。訪問を通して子供たちが地域の人から学び、地域の方はよく知る地域の子供たちをしっかりと面倒を見るという地域連携の「よさ」を垣間見ることができました。

この日の授業までに、地域連携担当教職員である坂内美香先生が、講師の先生とのファーストコンタクトから日程の調整に至るまでを担当されました。地域連携に関する授業を実施する際には窓口を一つにして地域連携担当教職員が日程調整を行い、その後担任につなげるというシステムは、今年度からスタートしたのですが、たいへん効果的であると担任の稲本澄子先生からも好評でした。



部屋を暖めて待ってくださっていました



作り方を真剣に聞く子供たち



味噌をませませ…



ご飯をつぶして…



丸めて串を刺して…



味噌を付けて囲炉裏で焼きました

<地域連携の視点で参考となる点>

- 学校の窓口を地域連携担当教職員に一本化することで、担任の負担軽減につながる。
- 地域の方から直接学び、実際に体験することで授業の充実につながる。

軌道に乗るまでは大変かもしれないけれど…